

令和7年度 学校評価(自己評価)

具体的目標および評価の観点		評価と課題
今年度の重点目標	① 生徒を真ん中に置いた少人数、個別指導に努め、生徒の自立と社会性の伸長を図る。	おおむね達成できた。
	② 体験的・探求的学習の充実を図り、授業改善による学力の向上、定着を目指す。	生徒に寄り添った授業ができています。さらに授業方法の研究ができればよいと思われる。
	③ 人権・生命を尊重し、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりに努める。	生徒の不安や苦しみを全職員が共有できている。
	④ 校外資源を積極的に活用し、保護者地域から信頼される学校づくりを推進する。	生徒が地域行事に参加する中で、体験を通して自ら計画し提案する機会になればよいと思われる。

領域	対象	重点目標	評価項目	具体的目標および評価の観点	評価	成果と今後の課題	
教育活動	学習指導	① 基本的学習習慣の確立	①	1 生徒に学習意欲を喚起することができたか。	A B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 工夫した教材を使用し、学習意欲の喚起に努めた。 生徒一人ひとりへの学習支援を、できる範囲で行った。 分かりやすい授業のための研修に、今後も努める必要がある。 さらなる学習意欲の喚起や成績上位者への指導等の課題も残っている。今年度オンライン教材の検討を進めた。 	
			②	2 生徒の状況に応じて個別指導や学習支援ができたか。	A B・C・D		
	② わかる授業の実践	1	少人数を生かした授業を展開できているか。	A B・C・D			
		① 進路意識の形成	1	進路ガイダンスを効果的に設定できたか。	A B・C・D		<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも適正に進路ガイダンスを実施することができた。 1学年ではATOBを実施し、サポステによる面接を生徒全員に実施した。 2学年では、インターンシップを2回実施し、産業や企業についての知見を得ることができた。 3学年では、外部の支援を得て、面接指導を十分に行うことができた。
	2		就業体験を通して将来の進路意識を高めることができたか。	A B・C・D			
	① 希望進路の実現	1	コース制を生かした進路実現が図られたか。	A B・C・D			
		2	生徒の目的意識を明確にし、納得のゆく進路選択が図られるよう進路相談を行うことができたか。	A B・C・D			
	生徒指導	① ③ 基本的生活習慣の確立	1	日常的な啓発活動ができたか。	A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導関連では、特に大きな問題行動は見られなかった。 生徒個々の特性を踏まえた上での対応は非常に難しかったが、係と学年で協力し取り組めた。 支援が必要な生徒の洗い出し、支援会議、全職員への周知が適時適切に行われたと考える。 家庭との連携は担任に頼るところが大きい、さらに校内での連携を図り、密に行えるように努めたい。 スクールカウンセラーの活用については、担任や養護教諭から勧めたり、本人からの依頼を受ける等、十分に活用し支援を行うことができた。 	
			2	家庭と連携して指導できたか。	A・B・C・D		
		① ③ 問題行動への対応	1	問題行動に適切に対処し、校則を守る意識の向上が図れたか。	A・B・C・D		
			2	人権に配慮し、生徒にとって居心地のよい雰囲気を作れたか。	A・B・C・D		
	特別活動	① ③ 生徒の自主活動の促進	1	生徒会活動を通じ、生徒の自主性を育むことができたか。	A B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の活動が全体的に充実して行うことが出来てきている。引き続き活動の企画・実施を支援していきたい。 文化祭では、生徒の自主性を尊重しながら活動を行うことができ、その中で生徒の個性や創造力の発揮に繋がった。 クラブ活動は一部の生徒の活動が継続的に行われている状況であるが、バスの問題が解消される来年度はもう少し活発になると見込まれる。 	
①			1 既存のクラブ活動を活性化させるとともに、生徒の自主的な活動を支援できたか。	A・B・C・D			
学校運営	教育課程	① ④ 将来に向けての教育課程の検討	1	本校の現状に即して、選択科目の見直しを含めた教育課程を検討することができたか。	A・B・C・D		<ul style="list-style-type: none"> 新3年生の状況を把握したうえで選択科目の見直しを検討し、ほぼ例年通りの選択科目を開講できた。多様な進路希望には個別対応をしっかりと行い進路実現に繋げることが出来た。 学校での職員研修や個々の先生方の工夫により、ICTを活用したり独自教材を作成するなどして、講座制やコース制の授業により、幅広く学習を進めることができています。
			① ④ 個に応じた選択科目の設定	1	個々の生徒の進路希望に応じた選択科目を設定できたか。		
		2		生徒の希望する進路に応じた指導はできたか。	A・B・C・D		
① ④ コース制授業の充実	1	これまでの授業内容を一層充実させ、生徒が満足できるように指導できたか。	A・B・C・D				
	① ④ 地域との連携	① ④ 開かれた学校づくり	1	授業公開を行い、多くの方に参加していただくことができたか。	A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への参加など、地域連携の形式は形作られている。かかわり方の工夫などを行いながら、今後も継続して行っていけるとよい。 学校評議員会の機会を通じて、地域の方からご意見を多数いただき、学校に対しての理解と支援が深まった。 随時実施している中学生の個別進学相談で見学があることで、受検生に対しての広報は行っている。 探求の授業では、地域資源を利用して、充実した学習を展開することができた。小学校でのボランティアも行い、地域との交流も行っている。 今後はさらに多くの学年が積極的に地域と交流し、充実した教育活動の実践につなげたい。 	
2			地域と共同しながら行事等を行うことができたか。	A B・C・D			
3			地域への広報活動は十分であったか。	A・B・C・D			
④ 将来に向けての本校のあり方について		1	地域の要望を聞きながら、よりよい学校づくりをすすめることができたか。	A・B・C・D			
	2	地元中学校からの進学者の増加を目指し、本校についての理解を深めてもらえるよう、積極的に働きかけることができたか。	A・B・C・D				

*自己評価: A 十分 B おおむね十分 C やや不十分 D 不十分

(各具体的目標および評価の観点について上記A~Dのいずれか評価する)

※ 評価の方法および公表

- 学校自己評価 1月中に全職員、2月中に生徒・保護者が4段階評価で行う。
- 学校関係者評価 第3回学校評議員会(2月)で行う。
- 学校評価(総括) 学校自己評価と学校関係者評価を総括し、改善点を明らかにする。
- 結果の公表 HPIに掲載する。